

Title	史學理論文獻目録
Sub Title	
Author	松本, 芳夫(Matsumoto, Yoshio) 有賀, 春雄(Ariga, Haruo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1933
Jtitle	史学 Vol.11, No.4 (1933. 2) ,p.115(621)- 172(678)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19330200-0115

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

史學理論文獻目錄

松 本 芳 夫

有 賀 春 雄

は し が き

本稿は明治以降最近にいたるまでにおいて邦文によつてなされた史學理論の著書論文の目錄である。歴史哲學、史學研究法、及び史觀に關するものを主としたけれども、史學史を始め、まゝ史論に屬すべきもの、また歴史家についての評傳なども収録されてや、廣汎に亙つてゐる。が何分兩人とも繁務のかたはら短時日のうちに蒐集したものであるから、恐らく多くの遺漏があることと思ふ。また一々の内容を檢したのではなく、單に書名題目によつて選擇したものが大部分であるから、中には適はしからぬものもあるであらうし、捨てたものの中にとるべきものがあつたかも知れない。不備の譏は甘じてう

け、たゞ他日の修補を期するか、或は完璧なるものの足場となればいいと思ふ。なほ或意味において歴史理論の重要問題たるべき文化、文明、民族、或は國家などに關するもの、更に歴史教育とか歴史教授法のごとき應用方面に關するものの蒐集も相當の數に上つたけれども、これらは本目錄から一切省いて別の機會にゆづることにした。また唯物史觀に關するものは、明かに史觀といへるものを専らとつた。特殊史においても理論的のものはつとめてとつた。單行本のうち理論に關する論文を多數収録してゐるものは、單にその書名のみをあげた。公刊の年月はできうるかぎり初版のそれを心がけたが、しかしことごとくさうであるとは保證しがたく、また雜誌の號數、年月などにも多少の錯誤があるであらう。本目錄を分類しなかつたのは、分類の困難によるばかりでなく、また史學理論全體の發達を年代的に綜觀できる便利があるためである。

三宅米吉 日本史學提要 第一編

明治十九年一月刊

末松青萍 支那史體を難す (東洋學藝雜誌五六號)

同十九年五月

ウイエルソン著 鈴置倉次郎譯 歴史哲學

明治二十年刊

三上參次 國史と愛國心と (日本文學四)

明治二十一年十一月

ドクトル・リリス 志村源太郎譯 歴史攻究の仕組 (國家學會雜誌三ノ二四・二九)

明治二十二年二・七月

三宅米吉 歴史講究法 (文三ノ一)

同二十二年七月

小中村清矩 史學の話 (史學雜誌一ノ一)

同二十二年十二月

重野安繹 史學に従事する者は其心至公

同二十二年十二月

至平ならざるべからず (史學雜誌一ノ一)

同二十二年十二月

星野恒 史學攻究歴史編纂は材料を精擇すべき説 (史學雜誌一ノ一) 同二十二年十二月

白鳥庫吉 歴史と地誌との關係 (史學雜誌一ノ一)

同二十二年十二月

下山寛一郎 史學史

同二十二年十二月

(史學雜誌一ノ一・二・三・四・五・六・七) 同二十二年十二月、二十三年一・二・三・四・五・六月

山縣昌藏 歴史哲學の大要 (史學雜誌一ノ二)

明治二十三年一月

久米邦武 時代の思想 (史學雜誌一ノ二)

同二十三年一月

史學理論文獻目錄 (松本・有賀)

白鳥庫吉 歴史と人傑 (史學雜誌二ノ三)

明治二十三年二月

加藤弘之 博物學と歴史學 (史學雜誌一ノ四)

同二十三年三月

久米邦武 英雄は公衆の奴隸 (史學雜誌一ノ十)

同二十三年九月

神谷道一 編史は地理を等閑にすべからず (史學雜誌一ノ十)

同二十三年九月

小川銀次郎 書外の事實蒐集の主意 (史學雜誌一ノ十二)

同二十三年十一月

島田重禮 漢土の史體 (史學雜誌一ノ十三)

同二十三年十二月

下山寛一郎 史學原理

同二十三年刊

星野恒 歴史の應用 (史學雜誌二ノ十四)

明治二十四年一月

元良勇次郎 輿論の變遷と國家の盛衰と (史學雜誌二ノ十五・二〇)

同二十四年二・七月

川住鏗三郎 神谷道一君の編史は地理を等閑に

同二十四年五月

すべからずの説に就きて (史學雜誌二ノ十八)

同二十四年五月

久米邦武 勸懲の舊習を洗ふて歴史を見よ (史學雜誌二ノ十九)

同二十四年六月

星野恒 上古事蹟當務以人事觀察と「史話五則」 (史學雜誌二ノ二三)

同二十四年十月

井上哲次郎 東洋史學の價值 (史學雜誌二ノ二四・二五・三ノ二六)

同二十四年十一月・十二月、二十五年一月

高津鍬三郎 國史の文體 (史學雜誌三ノ三三・三四)

明治二十五年八月・九月

武居 保 史學日本理上史

同二十五年十月刊

重野安釋 史にかゝみといふこと (史學雜誌三ノ三七)

同二十五年十二月

井上哲次郎 史學研究法に就て (史論二)

明治二十六年一月

井上哲次郎 史學研究法に就きて (史海二〇)

同二十六年二月

久米邦武 井上博士の史學研究法を讀む (史論三)

同二十六年二月

井上哲次郎 寄ニ史學書院ニ答ニ久米邦武氏一 (史論四)

同二十六年二月

島田重禮 目錄の書と史學との關係 (史學雜誌四ノ三九)

同二十六年二月

星野 恒 史學に對する世評に就きて (史學雜誌四ノ三九)

同二十六年二月

久米邦武 史學の獨立 (史學雜誌四ノ四五)

同二十六年八月

レオ・トルストイ 民友社譯 歴史攻究法 (平民叢書第八編)

同二十六年刊

辰己小次郎 歴史哲學 (哲學館講義録の内)

同二十六年以前

坪井九馬三 史學に就て (史學雜誌五ノ一)

明治二十七年一月

木村正辭 史學一班 (史學雜誌五ノ六)

同二十七年六月

久米邦武 史學の標準 (史學雜誌五ノ九・十・十一)

同二十七年九・十・十一月

栗田 寬 大に國史學を興すべき論(國學院雜誌一ノ一)

同二十七年十一月

物集高見 歴史のかきかた、また歴史の教

方につきて思へる事ども(國學院雜誌一ノ二)

明治二十七年十二月

澁江、保譯

歴史研究法 (通俗教育全集第九五・九六編)

同二十七年刊

坪井九馬三 史學と類似科學との區別(太陽一ノ二)

明治二十八年二月

本多淺次郎 歴史研究の必要 (奥羽史學會々報一)

同二十八年五月

界川

文學史編纂方法につきて(文學史敘述方法、編年體と
記事本末題との長短) (帝國文學一ノ五)

同二十八年五月

坪井九馬三 史學編纂とは何ぞ (太陽一ノ六)

同二十八年六月

坪井正五郎 史學上土俗調査の價値 (史學雜誌六ノ六)

同二十八年六月

プロセロー 歴史を學ぶべき理由「就職演説」(史學雜誌六ノ八)

同二十八年八月

久米邦武 史學の活眼 (史學雜誌六ノ八・九)

同二十八年八・九月

千河岸貫一 國史論 (太陽一ノ十)

同二十八年十月

萩野由之 郷土史料の編纂 (國學院雜誌二ノ二)

同二十八年十一月

中尾乙三郎 歴史之乘

同二十八年刊

後藤寅之助 史學綱要

同二十八・二十九・三十年刊

芳川太郎吉 ロッホル氏歴史哲學 (史學雜誌七ノ四) 明治二十九年四月

リース ハイソリツヒ・フォン・トライチニケ (史學雜誌七ノ八) 同二十九年八月

桑原隲藏 東洋史につきて (東洋哲學四ノ一・三) 明治三十年三・五月

星野恒 史家は時勢を知らざるべからず (史學雜誌八ノ六) 同三十年六月

浮田和民 史學通論 同三十・三十一・三十二年刊

内田銀藏 經濟史の性質及範圍に就きて (史學雜誌九ノ一) 明治三十一年一月

久米邦武 歴史學の進み (史學雜誌九ノ七) 同三十一年七月

坂田厚胤 歴史哲學の爲めに辨ず (史學雜誌十ノ一) 明治三十二年一月

芳川太郎吉 On History (史學雜誌十ノ二・三・四) 同三十二年二・三・四月

村川堅固 歴史研究法 (史學界一ノ三) 同三十二年三月

坂田厚胤 再び歴史哲學に就て (史學雜誌十ノ三) 同三十二年三月

河合弘 「歴史の哲學」論に就きて史學雜誌記者に質す (史學雜誌十ノ三) 同三十二年三月

桑野禮治 歴史哲學に於るカントの位置 (史學界一ノ三) 同三十二年四月

新見吉治 マコーレー卿の史觀 (史學界一ノ五) 同三十二年六月

箕作元八 ランケの史學研究法に就て (史學雜誌十ノ六) 同三十二年六月

醍醐羯磨 ベーコン卿の史學 (史學界一ノ六)

明治三十二年七月

井上哲次郎 歴史哲學に關する余が見解 (史學雜誌十ノ八・九)

同三十二年八・九月

井上哲次郎 歴史哲學に對する余が見解 (太陽五ノ二二)

同三十二年九月

坪井九馬二 歴史學 (專修學校講義録の内)

同二十七—三十二年

下山寛一郎 史學 (哲學館講義録)

同三十二年以前

那珂通世 臺灣朝鮮滿洲史研究の枝折 (史學雜誌十一ノ一)

明治三十三年一月

リ野元三 述 歴史時期及び百年紀祭につきて

(史學雜誌十一ノ四) 同三十三年四月

Ueber historische Perioden und Centenarfeiern

さ こん 希臘の二大史家 (史學界二ノ五)

同三十三年五月

積 川 生 ス キ デ ス (史學界二ノ五)

同三十三年五月

内田銀藏 歴史の理論及歴史の哲學 (史學雜誌十一ノ五・七・八・十・十二)

同三十三年五・七・八・十・十二月

黒田長成 歴史研究の必要及國史編纂の急務 (史學雜誌十一ノ六)

同三十三年六月

新見吉治 史學管見 (史學雜誌十一ノ六)

同三十三年六月

内山正居 史學に於ける自然と人との關係 (史學界二ノ七)

同三十三年七月

加藤弘之 歴史上理と情との關係 (史學雜誌十一ノ七)

同三十三年七月

山路愛山 史學論 (國民新聞)

同三十三年七月二十日

田中萃一郎 劉知幾の歴史研究法 (慶應義塾學報三十)

同三十三年八月

小中村清矩 國史學の棗

同三十三年十月刊

ラングロア及セニョーボー氏
村川堅固等解説 歴史研究法綱要 (名著綱要政治理財科の内)

同三十三年・三十四年刊

山路愛山 歴史家としての新井白石(讀史論集所收)

明治三十四年四月

種玉 セーニョボー氏の現代史編修方針(史學界三ノ五)

同三十四年五月

内田銀藏 經濟史の研究に就きて (經濟叢書一・三)

同三十四年六月

三宅秀 醫學と史學との關係 (史學雜誌十二ノ七)

同三十四年七月

久米邦武 史學考證の弊 (史學雜誌十二ノ八)

同三十四年八月

浮田和民 歴史哲學の問題 (哲學雜誌十六ノ一七五)

同三十四年九月

坪井九馬三 言語と史學 (史學雜誌十二ノ十)

同三十四年十月

田中萃一郎 王鳴盛の史學 (慶應義塾學報四六)

同三十四年十一月

阿部秀助 「カール・ランプレヒト」氏と獨逸史(歴史地理四ノ三)

明治三十五年三月

坪井九馬三 史學研究法

(東京專門學校文學教育科第一回第一學年講義録の内)

同三十五・三十六年

星野 恒 讀史の心得 (史學雜誌十四ノ二)

明治三十六年一月

坪井九馬三 歴史本を讀む心得 (國史學五ノ二)

同三十六年二月

雪山外史 歴史家としての頼山陽 (日本人一八六)

同三十六年五月

建部 遜吾 歴史研究の精神を論じて歴

史哲學及文明史に及ぶ (史學雜誌十四ノ六)

同三十六年六月

坪井九馬三 史學研究法 (早稻田叢書の内)

同三十六年十月刊

ボロン博士 浩 鷗 生 譯 レオポルド・フォン・ランケ(國史學五ノ十一・十二)

同三十六年十一月・十二月

阿部 秀助 近世獨逸史學史

(早稻田大學三十七年度史學科第二學年講義録の内)

同三十六年・三十七年

阿部 秀助 アクトン 卿 (史學界六ノ一)

明治三十七年一月

坪井九馬三 史學と經濟との關係 (史學雜誌十五ノ二)

同三十七年一月

阿部 秀助 ランケ氏に就きて (史學界六ノ二)

同三十七年二月

高桑 駒吉 ランケ氏の事蹟に就て (同上)

同上

箕作 元人 ランケ氏に對する批評に就きて(同上)

同上

坪井九馬三 ランケ氏の研究法より觀たる維新前の外交に就て(同上) 同上

阿部 秀助 史家としての林羅山 (史學界六ノ五) 同三十七年五月

中村久四郎 ヒルト教授の經歷及び其學績(史學雜誌十五ノ七) 同三十七年七月

河上 肇 セーリグマン教授の歴史の經濟的説明(史學雜誌十五ノ八) 同三十七年八月

阿部 秀助 ウィンケルマン(獨逸史學史の一節)(史學界六ノ八) 同三十七年八月

石倉小三郎 音樂史の價值並びに其研究法を論ず(帝國文學十一ノ二) 明治三十八年二月

遠藤 隆吉 歴史に對する私見 (史學界七ノ四) 同三十八年四月

小杉 楳村 美術と歴史との關係 (日本美術七四・七五・七六) 同三十八年四・五月

白鳥 庫吉 東洋史研究の必要 (史學界七ノ八) 同三十八年五月

河上 肇 譯 歴史の經濟的説明 新 史 觀 同三十八年六月刊

立 栖 教 俊 セリグマン氏著「歴史之經濟的説明」

(倫理心理學新著梗概第一輯上卷所收) 同三十八年七月

千河岸貫一 新井白石の古史觀 (日本人四三五・四三六・四三七) 明治三十九年五・六・七月

末松 謙 證 史學研究法に就きて (史學雜誌十七ノ八・九) 同三十九年八・九月

アルプレヒト・キルト (Dr. H. A.) 歴史ニ於ケル理法(人性二ノ九) 同三十九年九月

内田 銀 藏 史學者としての本居宣長(歴史地理九ノ二) 明治四十年一月

丹羽 豊

社會主義と物質的史觀論(國民經濟雜誌二ノ一)

明治四十年一月

小林庄次郎

史學の性質及歴史の觀察法に就ての管見

(社會組織を根據とする歴史觀)(史學雜誌十八ノ二・三) 同四十年二・三月

坪井九馬三

史家としてのマルクス (史學雜誌十八ノ九・十)

同四十年九・十月

白鳥庫吉

史筆の極致 (學習院輔仁會雜誌七四)

明治四十一年三月

黑板勝美

國史の研究

同四十一年三月刊

阿部秀助

現代の史風 (史學雜誌十九ノ三・五・八、二十ノ六) 同四十一年三・五・八月、四十二年六月

内田銀藏

歴史の研究に就きて (大阪毎日北陸講演集)

同四十一年六月

立栖教俊

ラムブレヒト氏著「歴史とは何ぞや」

(倫理心理學教育社會學新著梗概 第三輯下卷所收) 同四十二年六月

阿部秀助

古代史研究の方法に就きて(歴史地理十二ノ三) 同四十一年九月

内田銀藏

史蹟の調査に就きて (大阪經濟雜誌十七ノ一) 明治四十二年一月

田中萃一郎

Emil Reich氏の史學研究法(三田學會雜誌一ノ一・二・四) 同四十二年二・三・五月

藤井健次郎

唯物史觀 (中央公論二四ノ三・四・七) 同四十二年三・四・七月

内田銀藏

日本經濟史研究ノ材料ニ就キテ(國家學會雜誌二三ノ七・九) 同四十二年七・九月

- 山路愛山 日本現代の史學及史家 (太陽十五ノ十二) 同四十二年九月
- 大谷光瑞 東洋史の研究に就きて (史學研究會講演集第二册所收) 同四十二年十月
- 江部淳夫 文明及文明史の研究法 (社會學論叢三) 同四十二年十一月
- 久米邦武 歴史家と理學思想 (中央公論二五ノ四) 明治四十三年一月
- 河上肇 エンゲルスと唯物史觀 (國家學會雜誌二四ノ二) 同四十三年二月
- 内田銀藏 史學と哲學 (藝文一ノ一・四・六・九) 同四十三年四・七・九・十二月
- 山路愛山 史學を論ず (國學院雜誌十六ノ五) 同四十三年五月
- 笠間杲雄 マルクスノ唯物史觀ヲ論ズ (國家學會雜誌二四ノ五・六) 同四十三年五・六月
- 村田岩次郎 歴史と言語學 (三田學會雜誌三ノ六) 同四十三年六月
- 桑木嚴翼 歴史哲學の問題 (史學研究會講演集第三册所收) 同四十三年九月
- 姉崎正治シヨベンハウエル 詩と歴史 (憲志と現識としての世界上所收) 同四十三年九月
- 田中萃一郎 近世史研究案内 (三田學會雜誌四ノ五) 同四十三年十一月
- 三浦周行 國史の研究と古文書學 (國學院雜誌十七ノ一) 明治四十四年一月
- 深田康算 美術史及美學に就て (東亞之光六ノ一) 同四十四年一月
- 笹川種郎 國史の信念 (日本及日本人五五三) 同四十四年三月

内田銀藏

經濟史及其の研究法 (經濟大辭典所收)

明治四十四年七月

内田銀藏

時 (藝文二ノ八)

同四十四年八月

三浦周行

國史研究の趨勢 (國學院雜誌十七ノ十)

同四十四年十月

姉崎正治譯

歴史について (意志と現識としての世界下所收) 明治四十五年一月

内田銀藏

國史の特性 (太陽十八ノ二)

同四十五年二月

内田銀藏

經濟史總論

同四十五年三月刊

松本文三郎

印度史研究資料に就いて (史學研究會講演集第四冊所收) 同四十五年四月

河上肇

唯物史觀ニ就イテ關博士ニ答フ (國民經濟雜誌十二ノ四) 同四十五年四月

内田銀藏

比較研究に就きて (新日本二ノ五)

同四十五年五月

關一

唯物史觀ニ就テ河上學士ノ教ヲ乞フ (國民經濟雜誌十二ノ六) 同四十五年六月

深作安文

國民と歴史 (東亞之光七ノ五)

同四十五年七月

河上肇

唯物觀ヨリ唯心觀へ (唯物史觀ノ立脚地ヲ明カニシテ關博士ニ答フ)

(國民經濟雜誌十三ノ一二)

同四十五年七月—大正元年八月

關一

河上學士ノ「唯物觀ヨリ唯心觀」ヲ讀ム (國民經濟雜誌十三ノ三) 大正元年九月

田中義成

史學の活用 (史學雜誌二三ノ十)

同元年十月

阿部秀助

史學の根本問題「史學の客觀

性と史料の心理的意義」(史學雜誌二四ノ一)

大正二年一月

長沼賢海

國民道德と正確なる國史の智識(佛教史學三ノ一)

同二年四月

小川郷太郎

ロシアノ唯物史觀辯駁論(京都法學會雜誌八ノ六・七)

同二年六・七月

河上肇

經濟的唯物史觀を論ず

(京都法學會雜誌八ノ六・八・十一) 同二年六・八・十一月

田中萃一郎

史學の性質及び任務

(東京市主催慶應義塾講演集)

同二年八月

錦田義富

リッカートの『文化科學と自然科學』

(京都法學會雜誌八ノ八・十、九ノ三・五)

同二年八・十月、三年三・五月

西田幾太郎

自然科學と歴史學 (哲學雜誌二八ノ三一九)

同二年九月

黑板勝美

國史の研究 總説の部

同二年十一月刊

藤井健次郎

唯物史觀の解剖及其素成分(日本社會學院年報第一卷第三册所收) 大正三年一月

坂口昂

フイヒテとランケ (藝文五上ノ一)

同三年一月

大類伸

オイケンの歴史哲學「讀史抄録」(史學雜誌二五ノ一)

同三年一月

大類伸

中世史研究の新基礎「讀史抄録」(史學雜誌二五ノ五)

同三年五月

内田銀藏

『世界』の觀念 (大阪毎日新聞)

同三年五月

史學理論文獻目錄(松本・有賀)

高木敏雄

傳説の史的評價を論じて所謂

合理的解釋の妄を辨ず (歴史地理二二ノ一)

大正三年七月

後藤朝太郎

支那上代文化史の研究法に就て (史學雜誌二五ノ七、二七ノ四) 同三年七月、五年四月

内田銀藏

世

界 (哲學雜誌二九ノ三三〇・三三二・三三三) 同三年八・十・十一月

坂口 昂

古代史研究の發展につきて (史學研究所收)

同三年九月

三並 良

オイケンの歴史哲學 (日本及日本人六三九)

同三年九月

菅沼可兒彦

郷土の年代記と英雄 (郷土研究二ノ八)

同三年十月

植村清之助

史學と文學 (歴史地理二四ノ五・六)

同三年十一月・十二月

内田銀藏

傳記の研究 (藝文五ノ十二)

同三年十二月

田中萃一郎

クロバトキンの史觀 (三田學會雜誌九ノ四)

大正四年四月

桑木巖翼

カントの歴史哲學に就て (哲學雜誌三十ノ三四〇)

同四年六月

田中萃一郎

日本民族史について (三田評論二一五)

同四年六月

紀平正美

倒逆の歴史 (國學院雜誌二一ノ六)

同四年六月

島本愛之助

歴史主義對價值主義 (東亞之光十ノ六)

同四年六月

大塚保治

リッケルトの歴史科學説の批評 (哲學雜誌三十ノ三四一) 同四年七月

- 阿部秀助 現代の史學とラムプレヒト(歴史地理二六ノ二) 同四年八月
- 阿部秀助 古史の經濟史的研究 (歴史地理二六ノ四) 同四年十月
- 紀平正美 歴史的批評と道德的批評(哲學雜誌三十ノ三四五) 同四年十一月
- 内田銀藏 史學地理學と他の諸學科との聯絡關係に就きて
(中等學校地理歴史教員協議會議事及講演速記録) 同四年十二月
- 藤井健次郎 唯物史觀の要訣及それについての考察(日本社會學院年報) 同四年十二月
- 坂口 昂 時代の趨勢と史學の任務(史林一ノ一) 大正五年一月
- 夏山繁樹 歴史とは何ぞや (歴史地理二七ノ三) 同五年三月
- 藤井健次郎 唯物史觀と歴史法 (史林一ノ二) 同五年四月
- 川合貞一 歴史哲學の問題 (三田文學七ノ六) 同五年六月
- 田中一貞 歴史哲學と社會學 (三田文學七ノ七) 同五年七月
- 鹿子木員信 カントの『永遠の平和』を論ず(哲學雜誌三一ノ三五三・三五四) 同五年七・八月
- 安部晴之助 リッケルトの歴史學の觀念に就て(哲學研究一ノ五) 同五年八月
- 隈本有尙 歴史は繰返す (丁酉倫理講演集一六九) 同五年九月
- 猪狩史山 歴史と文章 (日本及日本人六八九) 同五年九月

坂口 昂

ランプレヒトを憶ふ (史林一ノ四)

大正五年十月

上野直昭

精神科學の基本問題 (哲學叢書第八篇)

同五年十月刊

宮本抄譯

フイヒテの歴史哲學(ギンデルバント) (哲學雜誌三二ノ三六一) 大正六年三月

須藤新吉

ヴント教授の精神科學に就て (哲學雜誌三二ノ三六八) 同六年十月

中村久四郎

歴史論及び東洋史研究書目 (東亞之光十二ノ十・十一・十二) 同六年十・十一・十二月

坂口 昂

世界史の古今觀 (歴史と地理一ノ一)

同六年十一月

内田銀藏

歴史研究の目的 (朝日講演集第二輯所收)

同六年十一月

羽田 享

輓近に於ける東洋史學の進歩 (史林三ノ一・二)

大正七年一・四月

松井 等

歴史の精神的説明 (國學院雜誌二四ノ三・四)

同七年三・四月

紀平正美

歴史的認識批判の原理 (史學雜誌二九ノ四)

同七年四月

植田壽藏

美術史の對象 (哲學研究三ノ五)

同七年五月

萩野由之

國史は如何にして研究すべきか (史話と文話所收)

同七年六月

大西猪之介

歴史學派から文化學派へ (國民經濟雜誌二五ノ一・二・三)

同七年七・八・九月

橋川 正

歴史の論理的解釋について (歴史と地理二ノ六)

同七年十二月

新村 出

言語の研究と古代史の研究 (民族と歴史一ノ一)

大正八年一月

松本彦次郎 シカゴ大學に於ける歴史批判學について(史林四ノ一)同八年一月

米田庄太郎 カントの歴史哲學 (哲學研究四ノ一・三・六・七) 同八年一・三・六・七月

ジョン・デューキ 獨逸の歴史哲學 (我等一ノ二) 同八年二月

大類 伸 戰時獨逸史學の一面 (史學雜誌三十ノ二) 同八年二月

田中達譯 シュエラー・マツシウズ 歴史の精神的解釋 (大日本文明協會刊行書第三十九卷)同八年二月刊

喜田貞吉 遺物遺蹟と歴史研究 (民族と歴史一ノ四) 同八年四月

野村兼太郎 經濟的史觀論の價值 (三田學會雜誌十三ノ五・六・七・九・十・十一・十二) 同八年五・六・七・九・十・十一・十二月

兒島喜久雄 美術史に於ける傳記の意義(哲學雜誌三四ノ三八七) 同八年五月

大類 伸 國史研究法 (國史講習錄所收) 同八年六月

黑板勝美 國史研究の人々に (國史講習錄所收) 同八年六月

河上 肇 マルクスの唯物史觀における所謂生産の意義(經濟論叢九ノ一) 大正八年七月

三浦周行 史的人物の批判 (解放二・三) 同八年七・八月

津田左右吉 神代史の研究法 (歴史と地理四ノ三) 同八年九月

原 勝郎 日本民族史の研究に就て(民族と歴史二ノ四) 同八年十月

小林孤村 ロビンソン氏の新史學 (國學院雜誌二五ノ十・十二) 大正八年十・十二月

河上肇 マルクスの唯物史觀に關する一考察(經濟論叢九ノ四) 同八年十月

高島素之 唯物史觀の改造 (解放五) 同八年十月

カミイユ・ジュリアン 田中 萃一郎譯 「古代國家論」の五十年紀(三田學會雜誌十三ノ十一) 同八年十一月

瀧本誠一 經濟史の研究に就て (三田學會雜誌十三ノ十一) 同八年十一月

長沼賢海 國民思想と國史 同八年十一月刊

カアル・ランブレヒト 和辻哲郎譯 近代歴史學 同八年十一月刊

内藤智秀 唯物史觀と唯心史觀 (三田評論二六九) 同八年十二月

櫛田民藏 唯物史觀と社會主義 (我等一ノ十二) 同八年十二月

吉野作造 唯物史觀の解釋 (中央公論三四ノ十二) 同八年十二月

河上肇 唯物史觀と個人努力 (社會問題研究) 同八年十二月

坂口 昂 史料解放の議 (歴史と地理五ノ二) 大正九年一月

ヘルマン・ゴルト 堀利彦譯 唯物史觀解説 (レッドカヴァ叢書第二卷) 同九年二月刊

堀利彦 唯物史觀と理想主義 (改造) 同九年二月

河上肇 資本論に現はれたる唯物史觀(經濟論叢十ノ二) 同九年二月

- 久保正夫 フイヒテの歴史哲學 (哲學研究五ノ四・五) 同九年四・五月
- 河上肇 「共產黨宣言」に現はれたる唯物史觀 (社會問題研究十六) 同九年六月
- 島田保太郎 唯物史觀說 (第四級民叢書第二編) 同九年六月刊
- 龍居松之助 史實と藝術 (中央史壇一ノ三) 同九年七月
- 河上肇 エンゲルス「科學的社會主義と唯物史觀」(社會問題研究十七) 同九年四月
- 林博太郎 歴史哲學の意義 (東亞之光十五ノ七・八) 同九年七・八月
- 米田庄太郎 晩近の歴史哲學と社會哲學 (史林五ノ三・四) 同九年七・十月
- 三木清 批判哲學と歴史哲學 (哲學研究五ノ九) 同九年九月
- 河上肇 ヘイヘン「社會主義と唯物史觀と倫理學」(社會問題研究十九) 同九年九月
- 櫛田民藏 マルクス學に於ける唯物史觀の地位 (我等二ノ十) 同九年十月
- 米田庄太郎 新理想主義の歴史哲學前篇(一) 晩近社會思想の研究上卷別冊) 同九年十月刊
- 木村莊五 歐米經濟史界の趨勢と其研究法 (三田學會雜誌十四ノ十・十一) 同九年十・十一月
- 財部靜治 歴史と社會學との關係 (經濟論叢十一ノ五、十二ノ一・二) 同九年十一月、十年一・二月
- 近藤哲雄 ハイブリック・リッカート 文化科學と自然科學 (大村論文叢書第二) 同九年十二月刊
- 本庄榮次郎 日本經濟史研究の必要と困難 (經濟論叢十二ノ二) 大正十年一月

三木 清

歴史的事象評價の標準に就いて(史林六ノ二)

大正十年一月

杉森孝次郎

歴史價と倫理價の社會的調節(太陽二七ノ一)

同十年一月

財部 靜治

歴史の本領(經濟論叢十二ノ一)

同十年一月

金田一京助

文化史料としての言語(東亞之光十六ノ一)

同十年一月

加田 哲二

アーサー・ペンティの歴史觀(三田學會雜誌十五ノ一・二・三) 同十年一・二・三月

河上 肇

史的唯物論略解(經濟論叢十二ノ二・六、十三ノ二) 同十年二・六・八月

大類 伸

歴史と自然と人

同十年二月刊

ウインデルバント
四宮兼之譯

歴史哲學の課題に就いて(哲學雜誌三六ノ四〇九)

同十年三月

三宅 雪嶺

現代國民思想と歴史(中央史壇二ノ三)

同十年三月

本間 久雄

國史家への要求(同上)

同上

河上 肇

マルクスの唯物史觀公式中の一句に就て(經濟論叢十二ノ三) 同十年三月

野村兼太郎

ギイディングスの歴史學說(三田學會雜誌十五ノ三・四・五) 同十年三・四・五月

瀧本 誠一

歴史と歴史家(三田學會雜誌十五ノ四)

同十年四月

中村 吉藏

民衆の立場から見た歴史(中央史壇二ノ四)

同十年四月

工藤直太郎

近代文化と唯物史觀(社會政策時報八・九)

同十年四・五月

- 赤堀又次郎 史料編纂につきて (歴史地理三七ノ四・五・六) 同十年四・五・六月
- 林 泰 輔 支那上代の研究資料に就て(斯文三ノ二・三) 同十年四・六月
- 米田庄太郎 新理想主義の歴史哲學 後篇(一)(二) 同十年五月刊
- 山口正太郎 シュタムラーの唯物史觀論の一考察(國民經濟雜誌三十ノ六) 同十年六月
- 瀧本誠一 經濟學史の歴史上に於ける位置(中央史壇三ノ一) 同十年七月
- 野村兼太郎 經濟史研究に就いて (三田學會雜誌十五ノ七・十二) 同十年七・十二月
- 坂口 昂 リース博士「世界史」 (史林六ノ三) 同十年七月
- 原 勝 郎 古朝鮮の研究に就て (民族と歴史六ノ一) 同十年七月
- 坂口昂・ルードキヒ・リース 坂口昂・安藤俊雄譯 世界史の使命 (史林六ノ三・四・七ノ一) 同十年七・十月、十一年一月
- 西村眞次 歴史表現の民衆化 (中央史壇三ノ二) 同十年八月
- 河上 肇 唯物史觀研究 同十年八月刊
- 三宅米吉 數と歴史について(日本中等教育數學會雜誌三ノ四・五)同十年十月
- モリツ・リツタ 小野田萬壽譯 政治史と文化史 (史學雜誌三二ノ十・十一・十二) 同十年十・十一・十二月
- 田中萃一郎 希臘の二大史家 (史學一ノ一) 同十年十月
- 赤堀又次郎 歴史の還元法 (中央史壇三ノ五) 同十年十一月

飯田忠純 ロツツエに於ける歴史の問題(三田評論二九三・二九四・二九五)同十年十二月、十一年一・二月

赤堀又次郎 歴史と教義と (歴史地理三八ノ六) 大正十年十二月

田邊元 歴史の認識に就いて (史林七ノ二) 大正十一年一月

河上肇 唯物史觀問答 (我等四ノ二) 同十一年一月

安ツウガン・バラノウスキ部浩譯 唯物史觀と餘剩價值 同十一年一月刊

川合貞一 歴史に對する認識論的考察(史學一ノ二) 同十一年二月

鈴木錠之助 アクトン卿 (史學一ノ二) 同十一年二月

米田庄太郎 リツケルトの歴史哲學 (文化哲學叢書第一冊) 同十一年二月刊

牧野純一 史學と神祕 (中央史壇四ノ三) 同十一年三月

長谷川天溪 思想問題と歴史研究 (太陽二八ノ四) 同十一年三月

三浦周行 現代史觀 同十一年三月刊

黑板勝美 歴史の文化的研究 (中央史壇四ノ四) 同十一年四月

桑木巖翼 文化史の研究に就て (同上) 同上

久米邦武 國史の文化問題とは何ぞ(同上) 同上

佐野學 我が國社會階級史に就て(同上) 同上

田邊重三譯 歷史哲學

同十一年四月刊

本田成之 司馬遷の歴史觀に就いて(支那學二ノ八・九)

同十一年四・五月

飯田忠純 シペンダレル『泰西の結末』を讀む(史學一ノ三)

同十一年五月

河上肇 社會主義革命の必然性と唯物史觀(我等四ノ五)

同十一年五月

大山千代雄譯 『哲學の窮乏』に現はれたる唯物史觀(同上)

同上

高橋龍雄 日本の文化史に就て (國學院雜誌二八ノ五)

同十一年五月

内田銀藏 史學理論 (内田銀藏遺稿全集第四集)

同十一年五月刊

朝永三十郎 カントの平和論

同十一年五月刊

ベルンハイム 坂口昂・小野鐵二譯 歴史とは何ぞや (史學叢書第一編)

同十一年五月刊

ウツド・ブリツヂ 歴史の眞意義 (中央史壇四ノ六、五ノ二)

同十一年六・八月

中村吉藏 歴史と階級意識 (中央史壇四ノ六)

同十一年六月

土屋喬雄 ラプリオラの史的唯物論(經濟學論集一ノ二)

同十一年六月

橘惠勝 史學とは何ぞや

同十一年七月刊

板垣鷹穂 新カント派の歴史哲學 (文化哲學叢書第二編)

同十一年七月刊

松井等 歴史研究とラーフの頭 (東洋二五ノ八)

同十一年八月

史學理論文獻目錄(松本・有賀)

(六五)

一三九

橘 惠 勝 國史研究の新觀察 (中央史壇五ノ三)

大正十一年九月

高須 梅 溪 歴史に於ける新原理及其展開(日本及日本人八四五)

同十一年九月

山口 正 太郎 歴史派經濟學と史學方法論(商業及經濟研究二八)

同十一年十月

村松 正 俊 ラポポールの歴史哲學 (我等四ノ十)

同十一年十月

丹羽 正 義 歴史に於ける普遍關係 (哲學研究七ノ十一)

同十一年十一月

小林 孤 村 クロイツェの歴史論 (國學院雜誌二八ノ十二)

同十一年十一月

牧 健 三 ケンペルの日本歴史觀 (歴史と地理十ノ六)

同十一年十二月

河上 肇 唯物史觀と政治革命 (我等四ノ十二)

同十一年十二月

波多野 精 一 歴史の意義に關してギリシヤ思想とヘブライ思想 (哲學研究八ノ二)

大正十二年一月

岡崎 文 夫 准 南 子 の 歴史 (支那學三ノ五)

同十二年一月

桑 木 嚴 翼 歴史と科學とは別箇の知識なるか(丁酉倫理講演集二四五)

同十二年一月

間崎 萬 里 歐米の史學研究五十年 (史學二ノ二)

同十二年二月

橋 本 孝 大正十一年の雜「歴史哲學」概觀 (史學二ノ二)

同十二年二月

鈴木 宗 忠 誌に表はれたる「歴史哲學」概觀 (史學二ノ二)

同十二年二月

社會哲學と歴史哲學(歴史と社會)(社會哲學の諸問題所収)同十二年三月

- 楠田 民藏 經濟學及び社會思想の唯物史觀論(我等五ノ三) 同十二年三月
- 渡邊 吉治 歴史の論理(講座四) 同十二年四月
- 高田 保馬 第三史觀(思想十九) 同十二年四月
- Y K ダムプロウイチの社會學としての歴史哲學(法律及政治二ノ五)同十二年五月
- ツガン・バラノウスキ 唯物史觀批判(社會問題叢書三) 同十二年五月刊
- 水谷 長三郎譯
- 兒玉 達童 ナトルプの歴史哲學(講座六) 同十二年六月
- 本庄 榮次郎 日本經濟史の特性(經濟論叢十六ノ六) 同十二年六月
- 朝日 融溪 歴史を通じて人生を見る 同十二年六月刊
- アントニオ・ラブリオラ 唯物史觀研究(社會科學大系三) 同十二年六月刊
- 木 蘇 毅 譯
- 大杉 榮 主觀的歴史論(生の闘争所收) 同十二年七月
- 山口 正太郎 デキルタイ「歴史と精神科學」(商業及經濟研究三一) 同十二年七月
- 丹羽 正義 歴史學概論 同十二年七月刊
- 恒藤 恭 文化的認識と歴史的認識(經濟論叢十七ノ一・二) 同十二年七・八月
- ヘル デル 田中 萃一郎譯 歴史哲學 上(泰西名著歴史叢書十三) 同十二年九月刊
- 小野 田生 リヒヤルト・クローナー(R. Kroeber)氏

の「歴史と哲學」

(史學會々報三)

大正十二年十月

古屋美貞

唯物史觀研究

(同志社論叢十二)

同十二年十一月

本庄榮次郎

日本社會史に就いて

(歴史と地理十二ノ五)

同十二年十一月

大關増次郎

歴史哲學(人間の自由史)(カント研究所收)

大正十三年一月

生島廣治郎

唯物史觀及無政府主義批判(國民經濟雜誌三六ノ一)

同十三年一月

寺本慧達

歴史研究に就ての一反省(國學院雜誌三十ノ一二)

同十三年一・二月

坂口昂

獨逸史學の二大百年紀念(史林九ノ一二)

同十三年一・四月

米田庄太郎

歴史哲學の諸問題(新理想主義歴史哲學前篇一)

同十三年一月刊

喜田貞吉

日本社會史とは何ぞや(歴史と地理十三ノ二)

同十三年二月

大原利武

上古史の研究に就て(朝鮮史講座六)

同十三年二月

高島佐一郎

マルクスの唯物史觀及び唯物論的辯證法の

文獻史的考察と其の批評(序論)(商業經濟論叢所收) 同十三年三月

植村清之助・安藤俊雄譯

歴史の理論及方法(史學叢書第五編)

同十三年三月刊

ハインリッヒ・タノイ

マルクス歴史社會國家學說上(社會科學大系十)

同十三年三月刊

河野密譯

カント哲學と唯物史觀(中央公論三九ノ四)

同十三年四月

士田杏村

梅田民藏

ケネーの經濟表と唯物史觀との交渉

(大原社會學研究所雜誌二ノ一) 同十三年四月

本庄榮治郎

再び「日本社會史」の意義に就て(歴史と地理十三ノ五)

同十三年五月

柳澤泰爾

カントの歴史哲學と社會哲學(法律及政治三ノ二・五)

同十三年五・六月

ボルトハルト
水谷長三郎譯

史的唯物論略解

同十三年五月刊

長谷川猪三郎

歴史の話

(吾等何をなすべき乎第二期十)

同十三年六月刊

オットオ・フラウン
京口元吉譯

歴史哲學概論

同十三年六月刊

米田庄太郎

歴史哲學體系

(新理想主義歴史哲學前篇二)

同十三年六月刊

大西友太

歴史と教育

(哲學研究九ノ七)

同十三年七月

關榮吉

ヘーゲルの歴史哲學

(思想三四)

同十三年八月

大西友太

歴史の本質

(哲學雜誌三九ノ四五〇)

同十三年八月

内藤虎次郎

維新史の史料に就て

(日本文化史研究所收)

同十三年九月

河上肇

唯物史觀と因果關係

(社會問題研究五五)

同十三年九月

百瀬二郎

ソレルと唯物史觀

(三田學會雜誌十八ノ十)

同十三年十月

米田庄太郎

カント及び其の後の歴史哲學(新理想主義歴史哲學後篇一) 同十三年十月刊

谷川盤雄 歷史我觀 (中央史壇九ノ五)

大正十三年十一月

原隨園 時、運、命 (史學雜誌三五ノ十二)

同十三年十一月

朝日融溪 地理は歴史の土臺なり (中央史壇九ノ六)

同十三年十二月

關榮吉 歷史的 理解 (講座二三)

同十三年十二月

高田保馬 經濟史觀より第三史觀まで (現代思潮大觀所收)

同十三年十二月

高島素之譯

唯物史觀の改造

同十三年十二月刊

波多野鼎 唯物史觀に於ける精神現象と經濟的基礎 (我等七ノ一) (大正十四年一月)

桑木嚴翼 歷史主義に就て (丁酉倫理講演集二六七)

同十四年一月

關未己榮 過去の歷史哲學 (經濟及商業四ノ一)

同十四年一月

秋山次郎 歷史的必然の概念に就て (マルクス主義二ノ一・二)

同十四年一・二月

飯塚敏夫 ラスク「フイヒテ」の觀念論と歴史 (日本法政新誌二二ノ一・五) (同十四年一・五月)

原隨園 ツキヂデスの史學に就いて (史學四ノ一)

同十四年二月

平泉澄 「文化人類學」を讀む (史學雜誌三六ノ二)

同十四年二月

福本和夫 唯物史觀の構成過程 (マルクス主義二ノ二)

同十四年二月

關未己榮 唯物史觀の哲學的先驅 (經濟及商業四ノ二)

同十四年二月

關 榮吉

ラムプレヒトの文化發展時代分け(社會學雜誌十一)

同十四年三月

三浦周行

近世史學上に於ける栗田寛先生(歴史と地理十五ノ三)

同十四年三月

大西友太

歴史と教育

同十四年三月刊

三木 清

歴史的因果律の問題 (哲學研究六ノ四)

同十四年四月

原 隨園

ポリビオスの史風 (史林十ノ二・三・四)

同十四年四・七・十月

永井 享

國民性の研究と史觀論—唯物史觀

と唯心史觀との對照 (社會政策時報五六)

同十四年五月

高坂正顯

歴史的時間の問題(ジムメル)(哲學研究十ノ五)

同十四年五月

平泉 澄

歴史に於ける實と眞 (史學雜誌三六ノ五)

同十四年五月

柳田國男

史料としての傳説 (史學四ノ二)

同十四年五月

城戸幡太郎

歴史的現實性と心理學 (思想四三)

同十四年五月

大類 伸

歴史に現はれたる綜合の力(明治聖德記念學會紀要二三)

同十四年五月

平野義太郎

マックス・アドラー「唯物史觀に於ける

テレオロギー」 (社會科學一ノ二)

同十四年六月

紀平正美

歴史的認識に於ける眞偽に就て(中央史壇十ノ七)

同十四年六月

史學理論文獻目錄(松本・有賀)

(六五)

一四五

大類 伸 歴史と疑問 (中央史壇十ノ七)

大正十四年六月

ヘルデール 合貞一譯 歴史哲學 下 (泰西名著歴史叢書十四)

同十四年六月刊

高田保馬 階級及第三史觀

同十四年六月刊

中山久四郎 歴史及歴史教育

同十四年六月刊

小林橋川 唯物史觀の崩壊

同十四年六月刊

赤神良讓 サン・シモンの歴史觀 (經濟及商業四ノ七・九)

同十四年七・九月

吉田靜致 絶對的觀念論者の歴史觀(東亞の光二十ノ八)

同十四年八月

ブラウ 果林茂譯 ストリントベルグの歴史哲學(講座三二)

同十四年八月

高橋誠一郎 歴史家の經濟學の領域侵入(史學四ノ三)

同十四年八月

田代秀徳 歴史と藝術 (哲學雜誌四十ノ四六三)

同十四年九月

波多野鼎 マルクスに於ける歴史觀の發展(社會科學一ノ四・六)

同十四年九・十一月

大野辰見 商業史と經濟史 (商業及經濟研究三九・四十)

同十四年九・十二月

エー・フオゲール 菅原憲抄譯 西歐羅巴の史的な生活に於ける週期律(史林十ノ四)

同十四年十月

武内省三 歴史哲學史概論 (法學論叢所收)

同十四年十一月

船田三郎 Leopold v. Ranke の歴史認識の一面に就いて(史學四ノ四)同十四年十二月

- 平泉 澄 現代の歴史観 (太陽三二ノ二) 大正十五年一月
- 澤木四方吉 美術史家ヴェルフリン (思想五一・五四) 同十五年一・四月
- 岡田哲藏 歴史の哲學觀—プリングル・パティソン (丁酉倫理講演集二八一) 同十五年三月
- 福本和夫 唯物史觀と中間派史觀 同十五年三月刊
- 武藤直治 唯物史觀の根本命題と社會革命の概念とについて (解放五ノ四) 同十五年四月
- 二木保幾 唯物史觀の方法論的一考察 (社會科學二ノ四) 同十五年四月
- 平泉 澄 我が歴史觀 同十五年五月刊
- 田代秀徳 ラスクに於ける歴史的認識の問題 (哲學雜誌四一ノ四七一) 同十五年五月
- 福本和夫 經濟史の研究 方法 (社會科學二ノ五) 同十五年五月
- 緒方 清 高島氏の唯物史觀批評を論ず (マルクス主義四ノ五) 同十五年五月
- 坪井九馬三 改訂 史學研究法 同十五年五月刊
- ヴァインデルバント 河東 涓譯 フイヒテの歴史哲學 (フレルーティエン上卷所收) 同十五年六月
- ニコライ・ブハリン 富士辰馬譯 唯物史觀 同十五年六月刊
- 下松三四吉 國史の應用 (歴史地理四八ノ二) 同十五年七月
- 堀 竹雄 國史の客觀的考察 (同上) 同上

史學理論文獻目錄 (松本・有賀)

(六五三)

オスヴァルト・スベンクラ
松村正俊譯 西洋の没落

大正十五年七・九・十月刊

原田淑人 文獻と遺物との相互補助(東洋史講座所收)

同十五年八月

小林孤村 リッターのランケ論 (國學院雜誌三二ノ九・十)

同十五年九・十月

小野秀雄 歴史は繰返す (日本及日本人二一〇)

同十五年十月

板垣鷹穂 歴史學的勞作と歴史家の個性(哲學第一輯)

同十五年十月

榎本謙輔 ペルンシュタインの唯物史觀修正論の批判(社會思想五ノ十)同十五年十月

平泉 澄 歴史を如何に學ぶべきか(歴史教育一ノ一)

同十五年十月

ベネディクト・クロオチエ
羽仁五郎譯 歴史敘述の理論及び歴史

同十五年十月刊

井原 紘 マルクスの唯物史觀 (社會經濟思想叢書九)

同十五年十月刊

イマヌエル・カント
木村素衛・田中經太郎
宮坂正顯譯 一般歴史考其他 (カント著作集十三)

同十五年十月刊

小林澄兄 教育思想史上の問題としての個人と社會(史學五ノ四)同十五年十一月

坂口 昂 ランケの史學と彼の體驗

したる革命との關係 (史學雜誌三七ノ十一・十二) 同十五年十一月・十二月

新井誠夫 好戦から非戦への文化史觀(東亞之光二二ノ十二) 同十五年十二月

小林秀雄 文化史發展の跡を顧みて(國學院雜誌三三ノ一・二・三・四) 昭和二年一・二・三・四月

新見吉治 歴史の研究 (史林十二ノ二) 同二年一・四月

下澤瑞世 歴史學の比較文化史への歩み(歴史教育一ノ三・四・五) 同二年一・二・三月

グインデルバント 篠田英雄譯 歴史と自然科学 (フレルデーエン下卷所収) 同二年一月

村瀬武比古 國民性と歴史のゾルレン(政経論叢二ノ二) 同二年二月

中村久四郎 歴史上の紀年法と近世支那の紀元説(歴史教育一ノ四) 同二年二月

佐藤堅司 史學入門に關する一二の管見(史學雜誌三八ノ二) 同二年二月

船田三郎 現代歴史哲學問題 (哲學講座十・十二・十三・十五) 同二年四・九・十月、三年七月

河上肇 唯物史觀に關する自己清算 (社會問題研究七七) 同二年二・三・四・五・六・七・八・三年六・十・十二月

高島佐一郎 唯物史觀の修訂と歸趨 (國民經濟雜誌四二ノ三) 同二年三月

ジャン・ジョーレス 淡徳三郎譯 史的理想主義と史的唯物論(ジョーレスとラファルグとの論争) 同二年三月刊

清原貞雄 日本道德史の特色 (歴史と地理十九ノ三・四) 同二年三・四月

瀧本誠一 經濟史の學理的研究 (三田學會雜誌二一ノ四) 同二年四月

今井登志喜 國史に於ける西洋史學 (國學院雜誌三三ノ四) 同二年四月

坂谷芳郎 支那古代研究の必要並に其傾向(斯文九ノ四) 同二年四月

史學理論文獻目錄(松本・有賀)

(六五)

西田重嗣

郷土史の研究を如何にすべきか(歴史教育二ノ二)

昭和二年五月

福田徳三

唯物史觀經濟史出立點の再吟味(改造)

同二年五・六月

中川一男

歴史學及び歴史教育の本質

同二年五月刊

カール・ムーア
義田胸喜譯

唯物史觀の哲學的經濟的基礎(精神科學叢書第一編)

同二年五月刊

三谷隆正

歴史と攝理(思想六八)

同二年六月

森戸辰男

文明史家並「社會改良」論者としての田口鼎軒(我等九ノ五)同二年六月

黑板勝美

荻生徂徠の史觀(史學雜誌三八ノ六)

同二年六月

長谷川萬次郎

支配の歴史より生活自體の歴史へ(我等九ノ五)

同二年六月

柳澤泰爾

歴史に於ける進化の理念(法律學研究二四ノ七)

同二年七月

松永材

歴史哲學の問題(リツケルトの價值哲學所收)

同二年七月

大西猪之介

唯物史觀(大西猪之介社會主義論所收)

同二年七月

エヌ・フハーリン
廣島定吉譯

史的唯物論の理論(スターリン、フハーリン著作集二)同二年七月刊

佐野學

歴史的唯物論の倫理的理想的問題(太陽三三ノ十)

同二年八月

平井新

唯物史觀批評(三田學會雜誌二一ノ八)

同二年八月

平泉澄

國史學の骨髓(史學雜誌三八ノ八)

同二年八月

田村徳治 史観の本質 (法學論叢十八ノ二・三・五・六) 同二年八・九・十一・十二月

宮崎勇藏 往古の歴史的觀念 (國學院雜誌三三ノ九) 同二年九月

林 惠海 デイルタイの社會概念に就いて——詳しくは歴史的、
社會的現實態 *die geschichtlich-gesellschaftliche Wirk-*
Klichkeit の概念—— (本稿は從來の歴史哲學及び古派社會學の
方法に對するデイルタイの具解のみに筆をかざる) (社會學雜誌四一) 同二年九月

エングルス 史的唯物論について 同二年九月刊

吉山道三郎 史的唯物論 (社會思想叢書十一) 同二年九月刊

ニコライ・ブハリン 史的、社會的學問、特に經濟學の方法論に就て (思想七二) 同二年十月

本多謙三 カントの歴史哲學 (思想七二) 同二年十月

高坂正顯 史観寸言 (歴史教育二ノ七) 同二年十月

大類 伸 文明史家としての田口鼎軒先生 (商學研究七ノ一) 同二年十月

福田徳三 史的唯物論の理論 同二年十月刊

テユメネフ 澤木四方吉 ヴェルブリンの「美術史上の基礎觀念」 (思想七三・七四) 同二年十一・十二月

永田廣志 美術史に於ける價值評價の問題 (哲學第三輯) 同二年十二月

板垣鷹穂 新井白石の神代研究の態度に就いて (龍谷大學論叢二七七) 同二年十二月

森下眞男

田邊元 史學に於ける過去の認識(哲學研究十三ノ一)

昭和三年一月

村岡典嗣 近世史學史上に於ける國學の貢獻(史林十三ノ一)

同三年一月

野村兼太郎 經濟史研究序論(歴史哲學の一考察)(三田學會雜誌二二ノ一)同三年一月

阿刀田令造 西洋史論

同三年一月刊

久米成次 唯物史觀批判の研究 (觀想四五・五十)

同三年一・五月

瀧本誠一 歴史と理想 (三田學會雜誌二二ノ二)

同三年二月

藤井章 社會主義の歴史觀と平等觀(丁酉倫理講演集三〇五)

同三年三月

小野正康 歴史觀 (觀想四七)

同三年三月

杉原圭三 價值自覺としての歴史—ギンデルハント歴史哲學考察—

(哲學雜誌四三ノ四九三・四九四) 同三年三・四月

佐野學 いかにも日本歴史を理解すべきか(日本歴史所收)

同三年三月

有森俊吉 眞史觀論—唯物史觀の誤謬に就て—

同三年三月刊

カール・カウツキ 由利英一譯 倫理と唯物史觀

同三年三月刊

中川一男 唯物史觀と國史教育 (歴史教育三ノ一)

同三年四月

田邊元 歴史の認識に於ける概念の機能(史林十三ノ二)

同三年四月

杉本直次郎

本邦に於ける東洋史學の成立に就いて(歴史と地理二一ノ四)同三年四月

福本和夫

唯物史觀のために

同三年四月刊

植村清之助

故坂口先生の史風(藝文十九ノ五)

同三年五月

中村孝也

史眼の養成(歴史教育三ノ二・三)

同三年五・六月

土田杏村

理解と歴史(現代哲學概論所收)

同三年五月

佐藤堅司

文化の意義と文化史構成の態度(西洋文化史講話所收)

同三年五月

清原貞雄

日本史學史

同三年五月刊

坂本 勝
ハウゼン・スタイン
本 勝譯

藝術と唯物史觀

同三年五月刊

三木 清

唯物史觀と現代の意識

同三年五月刊

原 隨 園

ギリシヤ史研究

同三年五月刊

羽仁五郎

反歴史主義批判(史學雜誌三九ノ六)

同三年六月

今井登志喜

歴史と文學(歴史教育三ノ四)

同三年七月

中川一男

因果關係と價值關係(歴史教育三ノ四)

同三年七月

新見吉治

應用史學(精神科學三ノ三)

同三年七月

前田幸太郎

歴史に於ける個人の意味(山口商學雜誌)

同三年七月

史學理論文獻目錄(松本・有賀)

(六五九)

一五三

ギディン・グス
中西司 娜子 譯

歴史に関する一理論 (社會學徒二ノ七)

昭和三年七月

大塚節 治

アルブレヒト・リツチュルの神學に於ける歴史と理性と體驗 (宗教研究五ノ四)

(宗教研究五ノ四)

同三年七月

ハインリッヒ・クノウ
河野 密 譯

マルクス歴史、社會、國家觀 (社會思想全集三二)

同年七月刊

羽仁五郎

事實の選擇と解釋 (思想八二)

同三年八月

中川一男

歴史的批判について (歴史教育三ノ六)

同三年九月

小西憲三

歴史の解釋と創造 (法政大學五十週年記念論文集所收)

同三年九月

エルンスト・ベルンハイム
小林 秀雄 譯

史學研究法 (史苑一ノ一—七ノ四)

同三年十月—七年七月

笠 信太郎

シュペングラーの歴史主義立場

同三年十月刊

今井登志喜

歴史知識の實際的意義 (史學雜誌三九ノ十一)

同三年十一月

三 木 清

理論、歴史、政策 (新興科學の旗のもとに一ノ二)

同三年十一月

セレステン・ブグレ
本田喜代次 譯

歴史と社會科學との諸關係

に關するクルノの説 (我等十ノ十・十一)

同三年十一月、十二月

岡本隆男

歴史學の一考察 (龍谷大學論叢二八三)

同三年十二月

淺見倫太郎

明治の歴史家は過てり (法律學研究二五ノ十二)

同三年十二月

中川一男 地方史料の取扱について(歴史教育三ノ九・十・十一) 昭和四年一・二・三月

三浦周行 近世の生んだ二大史家 (史林十四ノ一) 同四年一月

綿貫哲雄・歴史法 (社會學雜誌五七) 同四年一月

野々村戒三 史學概論 (文化科學叢書六) 同四年一月刊

川内唯彦 史的一元論 (スターリン・ブハリン著作集十二) 同四年一月刊

佐野學・西雅雄編 唯物史觀 (三田學會雜誌二三ノ二) 同四年二月

小泉順三 サン・シモンの歴史哲學と人類の科學 (三田學會雜誌二三ノ二) 同四年二月

船田三郎 歴史哲學の可能に關する問題(哲學第五輯) 同四年二月

マルクス・ブレイヴイール 唯物史觀 (マルクス主義の基礎所收) 同四年二月

松井等 歴史理論と支那問題 (東亞二ノ三) 同四年三月

松原寛 ヘーゲルの歴史哲學 (理想三ノ一) 同四年三月

喜田貞吉 日本に於ける史前時代の歴史研究に就いて(史前學雜誌一ノ一) 同四年三月

津田左右吉 歴史の矛盾性 (史苑二ノ一) 同四年四月

羽仁五郎 個別特殊性の幻想 (新興科學の旗のもとに二ノ四) 同四年四月

ベネデット・クロオチエ 史的唯物論とマルクス派經濟學(社會思想全集一六所收) 同四年四月

史學理論文獻目錄(松本・有賀)

(六一)

シエリシゲ
八倉萬壽治譯

歴史學及び法學の研究に就いて(學術研究の方法論所收)昭和四年四月

ヘーゲル
今田竹千代譯

歴史哲學序論(哲學名著叢書五) 同四年四月刊

ヘーゲル
河野正通譯

歴史哲學概論(ヘーゲル著作集一) 同四年四月刊

セム・コフスキ
マルクス書房譯編

史的唯物論の例證(マルクス學教科書) 同四年四月刊

下澤瑞世

文化史と文化心理學との接觸(大東文化六ノ五) 同四年五月

杉森孝次郎

唯物史觀の事情(理想三ノ二) 同四年五月

羽仁五郎

世界史の可能性と必然性——ウエルス批判——

(新興科學の旗のもとに二ノ五) 同四年五月

小林秀雄

ランケに關する研究(史苑二ノ二、三ノ二・三・四・六) 同四年五・十一・十二月、五年一・三月

三木清

ヘーゲルの歴史哲學(思想八三) 同四年六月

羽仁五郎

唯物史觀と發展段階の理論(新興科學の旗のもとに二ノ六) 同四年六月

メーリン
岡岡宗司譯

唯物史觀(思想八三) 同四年六月刊

アレハノフ
藤原惟人譯

チエルヌイシエスキ——その哲學・歴史・及び文學觀—— 同四年六月刊

三木清

史的觀念論の諸問題 同四年六月刊

セム・コフスキ
マルクス書房譯編

自由と必然(マルクス學教科書四) 同四年四月刊

- 小山榮三 文化史に於ける類型概念の構造と形態(社會學雜誌六二)同四年七月
- 三木清 歴史主義の問題 (新興科學の旗のもとに二ノ七) 同四年七月
- 吉田秀夫 史觀としてのマルサス人口論(我等十二ノ七・八・九) 同四年七・九・十月
- 小泉信三 唯物史觀と共產主義的歸結(改造) 同四年八月
- 石川興二 經濟史基礎論 (經濟論叢二九ノ二) 同四年八月
- 堀江保藏 經濟理論と經濟史 (同上) 同四年八月
- テガ 今宮 新譯 史的研究と修史學 (史學八ノ二・四・九ノ三、十ノ一)同四年八・十二月、五年九月、六年三月
- 西田直二郎 郷土史研究と其の教育 (自然科學地理研究號) 同四年九月
- 羽仁五郎 轉形期の歴史學 同四年九月刊
- セム・コフスキ
マルクス書房譯編 史的唯物論 (マルクス學教科書二) 同四年九月刊
- 仲小路彰 ヘーゲルの史的辯證法 (ヘーゲル辯證法研究九・十) 同四年九・十月
- 田邊元 行爲と歴史、及び辯證法のこれに對する關係(思想八九)同四年十月
- 河野正通 ヘーゲルの史的辯證法に就いて(同上) 同上
- 新見吉治 西洋史研究の使命 (史學研究一ノ一) 同四年十月
- 肥後和男 林羅山とその史學 (史林十四ノ四) 同四年十月

今井登志喜

歴史に於ける比較攻究の問題(史學雜誌四十ノ十二)

昭和四年十一月

上田藤十郎

歴史と國民經濟との關係(經濟史研究一)

同四年十一月

原勝郎

歴史の功過(日本中世史之研究所收)

同四年十一月

同上

歴史研究に就て(同上)

同上

同上

歴史の效用(同上)

同上

アドラッキ
田村清吉譯

レーニン史的唯物論

同四年十一月刊

ク海篤助
鳥谷克己譯

マルクスの歴史社會並に國家理論(改造文庫第一部四七)同四年十一月刊

森島正金
濱島正金

宗教學に於ける宗教史の地位(智山學報一ノ二)

同四年十二月

グインデルバント
篠田英雄譯

歴史と自然科學(岩波文庫五五六)

同四年十二月刊

岡島誠太郎

古代埃及人の歴史觀と記録とに就いて(史林十五ノ二)昭和五年一月

大類伸

歴史に於ける發展の觀念(史學研究一ノ二)

同五年一月

千代田謙

ラムプレヒトの史學史的見解(同上)

同上

大山柏

史前學、考古學、及び史學(史前學雜誌二ノ二)

同五年一月

中川生

歴史學の個性(歴史教育四ノ十)

同五年一月

山口隆克譯

歴史學(科學研究法所收)

同五年一月

間崎萬里 現代フランスの史學 (フランスの社會科學所收) 同五年二月

中川生 文化史の形態とその意義 (歴史教育四ノ十一) 同五年二月

服部之總 明治維新史と唯物史觀 (思想九三) 同五年二月

堺利彦譯註 唯物史觀要約 同五年二月刊

プロレタリア科學研究所 唯物史觀序說 同五年三月刊

アドラツキ直井武夫譯 レーニシ史的唯物論體系上 同五年三月刊

岡澤秀虎 文學史に於ける社會的方法に就いて (思想九五) 同五年四月

羽仁五郎 歴史學に於ける素朴唯物論 (史學雜誌四一ノ四) 同五年四月

千代田謙 ランケの世界史觀に於ける羅馬主義 (史學研究一ノ三) 同五年四月

新見吉治 米國史の研究について (同上) 同上

中山久四郎 歴史を通して流るゝ偉大の力 (歴史教育五ノ一) 同五年四月

竹下直之 生と哲學と歴史法の問題——ディルタイ覺書——

(理想四ノ二・四) 同五年四・七月

鷺尾順敬 日本文化史觀に就いて (地理と歴史二ノ四・六) 同五年四・六月

三浦周行 日本史學史概説 (日本史の研究第二輯所收) 同五年四月

史學理論文獻目錄 (松本・有賀)

(三五)

河野正ヘノマサ通譯

歷史哲學緒論

昭和五年四月刊

向坂逸郎

歴史に於ける偉人の役割(改造)

同五年五月

樺俊雄

フィヒテの歴史哲學(理想四ノ二)

同五年五月

岡島誠太郎

サラセン文化の育める最大最終の史家イブン・

カルトウーレに就いて(龍谷大學論叢二九一)

同五年五月

橋本辰彦

英雄と時代との能動所動關係(歴史教育五ノ二)

同五年五月

長壽吉

世界史に對する質疑(同上)

同上

大西友太

唯物史觀の「物」(哲學雜誌四五ノ五一九・五二〇・五二一)同五年五・六・七月

萩原厚ハギハラヒロシ生譯

正義、善、靈、神の唯物史觀

同五年五月刊

河上肇

唯物史觀の略解

同五年五月刊

淺野利三郎

西洋史觀

同五年五月刊

板垣鷹穂

美術史の根本問題

同五年六月刊

長谷川如是閑

歴史を捻ぢる

同五年六月刊

市村甚三郎

歴史學の本質、方法、及び歴史家の立場(歴史教育五ノ四)同五年七月

秋山謙藏

明治維新史觀の變遷(同上)

同上

淺海生 歴史の發展 (同上)

荒川實藏ウヱ・サラビヤノフ 史的唯物論入門 同五年七月刊

船山信二 「體驗及びその客觀化」としての歴史(哲學研究十五ノ八)同五年八月

直井武夫フナヰハリス 史的唯物論 同五年八月刊

今井毅積 史學上の動態と靜態 (歴史教育五ノ五・八) 同五年八・十月

金子光介 ランケの世界史に於ける史的發展(哲學論集所收) 同五年九月

助川貞三 社會學と史學との關係についての考察(史苑四ノ六) 同五年九月

高田保馬 第三史觀の立場から (思想一〇〇) 同五年九月

石川三四郎 辯證法的唯物史觀の批評 同五年九月刊

竹沼隼人譯 マルクス・エンゲルス「史的唯物論」集 同五年九月刊

廣島定吉ハハリス 唯物史觀

(史的唯物論の理論及其他)(マルクス主義の旗の下に文庫五) 同五年九月刊

直井武夫アドラッキ レーニン史的唯物論體系下 及上下合本 同五年九月刊

大江精志郎 唯物史觀批判 (理想四ノ五新興社會理論特輯號)同五年十月

柳田國男 郷土史研究についての希望

史學理論文獻目錄(松本・有賀)

(歴史教育特別増刊郷土史は如何に研究すべきか)

昭和五年十月

柴田常恵 郷土史の編修 (同上)

同上

鷺尾順敬 郷土史研究の設備 (同上)

同上

同上 郷土史研究の意義 (同上)

同上

同上 郷土史研究の範圍 (同上)

同上

手塚弘保 史學の横顔

(板垣氏の史學概念について)(日本上代史研究試論第二册所版)

同五年十月

同上 史觀素描 (同上)

同上

高山俊 文化發展の一原理としての辨證法(大東文化七ノ十)

同五年十月

デボリン・ルダス 廣島定吉譯 「フハーリン唯物史觀」批判

同五年十月刊

加田哲二 史的唯物論研究序説 (三田學會雜誌二四ノ十一)

同五年十一月

土屋喬雄 地方史家と中央史家との結合に就て(郷土一ノ一)

同五年十一月

犬類伸 史學(Charles V Langlois) (佛蘭亞科學下卷所收)

同五年十一月

河上肇 唯物史觀 (第二貧乏物語所收)

同五年十一月

朝日融溪 マキヤペリの唯物史觀とその誤謬(史學九ノ四)

同五年十二月

新館正國 自然と自由、カント歴史形而上學の一考察(哲學第七輯所收) 同五年十二月

ベンノイ・エルドマン 唯物論的歴史觀の哲學的諸前提(同上) 同上

小林秀雄 文化史發展の過程(史苑五ノ三・五、六ノ一・二・三・四) 同五年十二月、六年二・四・五・六・七月

マールホルツ 文學史と文藝學 同五年十二月刊

笠信太郎 史的唯物論 (中央公論四六ノ一) 昭和六年一月

十河佑貞 キルヘルム・フンボルトの歴史理念說に就て(史苑五ノ四) 同六年一月

高田春彦 歴史から見た傳説とその取扱方について(同上) 同上

犬山 柏 史前學と我神代 (史前學雜誌三ノ一) 同六年一月

西田直二郎 日本の史學と文化史(桑原博士遺曆記念東洋史論叢所收) 同六年一月

小林健三 歴史學の基礎概念に就て(歴史教育五ノ十・十二、六ノ二・四) 同六年一・三・五・六月

フインケルト、シルヴェント共著
フロレタリヤ科學研究所ソヴェイエト科學研究所譯

史的唯物論教程

同六年一月刊

中山久四郎 清朝考證の學風と近世日本(史潮一ノ一)

同六年一月

カール・カウツキ 唯 物 史 觀 (第一卷自然と社會、第一書精神と世界) 同六年二月刊

藤井悌、佐多忠隆譯
全聯邦共產黨中央委員會編
マルクス主義の旗の下に編輯部譯 史的唯物論大系

同六年二月刊

史學理論文獻目錄(松本・有賀)

(六六)

船山信一

歴史哲學の地位

その一(前言的なもの)(哲學研究十六ノ三)昭和六年三月

遠藤一郎譯

マルクス主義と歴史

(社會科學ブックレット第一篇) 同六年三月刊

岡崎文夫

章學誠の史學大要

(史學研究二ノ三)

同六年四月

今田竹千代

ヘーゲルの歴史哲學

(理想五ノ一ヘーゲル復興特輯)

同六年四月

瀧川政次郎

日本社會史の特性

(丁酉倫理講演集三四二)

同六年四月

高田保馬

社會學的史觀について

(朝永博士還曆記念哲學論文集所收)同六年四月

瀧川政次郎

歴史と社會組織

(現代史學大系第四卷)

同六年四月刊

石濱知行

歴史と經濟組織

(同上)

同上

島芳夫

ヘーゲルの歴史哲學

(哲學研究十六ノ四・十一)

同六年四月・十一月

マクス・シュエラー
樺俊雄・佐藤慶二譯

人間と歴史

(哲學的人間學所收)

同六年五月

西田直二郎

文化史の性質

(歴史と地理二七ノ六)

同六年六月

高村象平

歴史學方法論の一面

(三田學會雜誌二五ノ六)

同六年六月

三木清

歴史主義と歴史

(觀念形態論所收)

同六年六月

坂田太郎

史的唯物論とイデオロギイ論

(ゴットフリード・サルモン)

(文化社會學研究叢書一、イデオロギイ論所收)

同六年六月

坂口 昂 近代史學の成立 (世界史論叢所收)

同六年六月

西谷啓治 歴史的なるものと先天的なるもの (思想二〇九・二一〇) 同六年六月

ルドルフ・シュタムラー 國松久 彌 譯 唯物史觀批判

同六年六月刊

山田 一 郎 譯 經濟的史觀

同六年六月刊

デボリーリン 永田 廣 志 譯 唯物史論

同六年六月刊

千代田 謙 ・ マキアヴェリの史論に於ける羅馬主義 (史學研究三ノ一) 同六年七月

朝日融溪 歴史の創作性と創作の歴史性とに就いて (史學研究三ノ一・三) 同六年七月・十二月

牧 健 二 史觀殊に唯物史觀の批判と

科學的史觀提唱の問題 (史林十六ノ三)

同六年七月

津田左右吉 日本上代史の研究に關する二三の傾向について (思想二一〇) 同六年七月

羽仁五郎 イデオロギーとしての歴史學 (イデオロギー論所收)

同六年七月

大高常彦 歴史研究の態度 (地理と歴史三ノ八)

同六年八月

イー・ラズモフスキー レーニンと史的唯物論 (マルクス主義の旗の下に五)

同六年八月

リッケル 山本 泰 教 譯 歴史哲學 (世界大思想全集五六所收)

同六年八月刊

黑板勝美 訂 國史の研究 總説

同六年八月刊

史學理論文獻目錄 (松本・有賀)

(七二)

一六五

山田文雄 唯物史觀に關する一考察(經濟學論集六)

昭和六年九月

柴田常惠 郷土史の研究 (郷土史研究講座一)

同六年九月

中山久四郎 朱子の學風特に其史學につきて

(斯文十三ノ十一、朱文公生誕八百年記念號) 同六年十月

中山久四郎 朱子の史學特にその資治通鑑綱目につきて(史潮一ノ三、二ノ二)同六年十月、七年二月

松原寛 ヘーゲルと歴史哲學

同六年十月刊

アンリ・タフネル 唯物史觀と歴史の經濟的説明(社會文庫第二册)

同六年十月刊

今山陽 史學について (史論創刊號)

同六年十一月

津田左右吉 東洋文化、東洋思想、東洋史(歴史教育六ノ八)

同六年十一月

浮田和民 史學管見 (史觀第一册)

同六年十一月

野々村戒三 歴史事實に關する私見 (同上)

同上

栗田賢三 歴史哲學 (ヘーゲル哲學解説所收)

同六年十一月

岩橋小彌太 郷土史と史料 (郷土史研究講座二)

同六年十一月

西田幾多郎 歴史 (岩波講座哲學第一册所收)

同六年十二月

古田良一 史學者としての頼山陽 (史學雜誌四二ノ十二)

同六年十二月

- 市村其三郎 國史學に關する所感の一二(神社協會雜誌三十ノ十二) 同六年十二月
- 三木清 存在の歴史性(思想一一五) 同六年十二月
- 由良由次 歴史的認識の對象と方法(同上) 同上
- 船田三郎 理解に就いて(川合教授遷厝記念論文集所收) 同六年十二月
- 間崎萬里 修史に於ける紀年の統一的傾向に就いて(同上) 同上
- 檜山欽四郎 歴史觀への二途、ヘーゲルとマルクス(フィロソフィア一卷)同六年十二月
- 長野朗 歴史の見方に就いて(歴史教育の根本問題所收) 同六年十二月
- 佐藤潔 沙翁「史劇」に現はれたる歴史の問題(同上) 同上
- 高市慶雄 歴史と現代生活との關係(同上) 同上
- 三木清 歴史の概念(哲學年誌一九三一年度) 同六年十二月
- 板垣鷹穂 藝術史的方法とプレハノフ(同上) 同上
- 松永材 史的唯物論者としての老子(井上先生喜壽記念文集所收) 同六年十二月
- 西村眞次 **世界古代文化史** 同六年十二月刊
- 由良哲次 歴史と純粹意志(理想五ノ八) 同七年一月
- 坂本都留吉 リッケルト『哲學の歴史と體系』(理想五ノ八・六ノ一) 同七年一・四月

高村象平

グインデルバントに於ける

歴史學と歴史の發展 (三田學會雜誌二六ノ二)

昭和七年一月

坂田太郎

マンハイムの歴史主義 (智識社會學所收)

同七年一月

樺俊雄

知識社會學と歴史主義 (同上)

同上

戸坂潤

知識社會學とイデオロギー論—歴史と論理

同上

との必然的關係に就いて(同上)

同上

肥後和男

山鹿素行の思想とその史學(歴史地理五九ノ二)

同七年二月

杉原桂三

歴史哲學の出立點 (哲學雜誌四七ノ五四〇)

同七年二月

上田三平

郷土史料としての史蹟に就て(郷土科學十六)

同七年二月

柳田國男

郷土史研究の方法 (夏期講習會講演集所收)

同七年二月

荻野仲三

郷土史に於ける國寶及び史蹟名勝に就いて(同上)

同上

西田直二郎

日本文化史序説

同七年二月刊

外山卯三郎

美術史學の方法論 (美術叢書二)

同七年三月刊

鬼頭英一ヘーデル譯

歴史哲學 (世界大思想全集五九)

同七年三月刊

勝田勝平

歴史解釋の前提に關する一考察(史苑七ノ三)

同七年四月

今井登志喜	歴史記述の方法	(理想三十、歴史の諸問題特輯號)	同七年四月
竹下直之	歴史觀の諸形態	(同上)	同上
羽仁五郎	帝國主義と歴史科學—現代歴史科學の動向	(同上)	同上
嘉治隆一	ブルジョア史觀と唯物史觀	(同上)	同上
戸坂潤	歴史と辯證法—形而上學的範疇は哲學的範疇ではない	(同上)	同上
大江精志郎	時間性と歴史性	(同上)	同上
樺俊雄	歴史敘述の歴史	(同上)	同上
岩崎勉	歴史に於ける目的の因子	(同上)	同上
市村今朝藏	歴史と政治	(同上)	同上
岡邦雄	自然科學と歴史	(同上)	同上
杉森孝次郎	歴史と英雄	(同上)	同上
樺俊雄	クロオチニ『反歴史主義』	(同上)	同上
植田壽藏	美術史は作風の歴史なるか	(哲學研究十七ノ四)	同七年四月
内藤智秀	現代史の重要性と其の研究上の困難	(歴史教育七ノ二)	同七年四月
三木清	歴史哲學	(續哲學叢書第一編)	同七年四月刊

鹿子木員信 新日本主義と歴史哲學

昭和七年四月刊

近藤壽夫 現代の史觀と國史教育

同七年四月刊

池田源太 日本美術史の問題に就いて(史迹と美術一九)

同七年五月

今井登志喜 史學の本質に關する二問題(六星館論文集第一輯)

同七年五月

羽仁五郎 歴史學批判敘説

同七年五月刊

坂口昂 獨逸史學史

同七年五月刊

橋本辰彦 國史研究法の原理と實際(價值判斷への止場を目ざす)

同七年五月刊

小島京一 史的唯物論

同七年五月刊

瀨沼茂樹 文學史の方法(岩波文庫)

同七年五月刊

大類伸 ブルクハルトの『伊太利ルネ

サンスの文化』を讀む(西洋史研究第一輯) 同七年六月

長崎茂次 中世及びルネサンス研究に於ける

Jakob Burckhardt 素描(同上) 同上

野村廣吉 邁イネツケの價值的歴史觀(同上)

同上

山口榮吉 十九世紀の歴史哲學及び歴史の神學(同上)

同上

Josephin Wachs

勝田勝平 歴史解釋の前提に關する一考察(史苑七ノ三) 同七年六月

金卷賢字 ヘーゲルの哲學——特に歴史、

意識、論理の性格について (經濟評論十五)

同七年六月

カウツキ
佐多忠隆譯

唯物史觀 (第二卷自然と社會第三書)

同七年六月刊

平泉澄 民族の特異性と歴史の恒久性(神道學雜誌十二)

同七年七月

岡崎文夫 司馬遷と班固 (史林十七ノ三)

同七年七月

高山岩男 歴史と類型(ヘーゲルの哲學史とデイルタイ世界觀)(思想一二二)同七年七月

清原貞雄 日本史學の發達 (歴史教育七ノ四)

同七年七月

川合貞一 唯物史觀に就て (三田評論四一九)

同七年七月

河野吉男 マクス・アドラーと唯物史觀(商業と經濟十三ノ一)

同七年七月

大森義太郎 史的唯物論 (現代史學大系三)

同七年七月刊

マック・ウキリアムス
長崎英造譯

歴史は繰返すか

同七年七月刊

中原與茂九郎 バビロニア人の歴史觀 (史學雜誌四三ノ八)

同七年八月

松平定光 史學に對する一考察 (學習院史學會々報三)

同七年八月

三田史學會編 田中萃一郎史學論文集

同七年八月刊

史學理論文獻目錄(松本・有賀)

(七)

一七一

大類 伸 史學概論 (現代史學大系一)

昭和七年八月刊

酒井三郎 歴史敘述にあらはれた個性(歴史教育七ノ六)

同七年九月

堀 勇雄 歴史家林羅山、その學問及環境(歴史教育七ノ六・七)

同七年九・十月

長 壽吉 近代世俗化と佛蘭西史學の影響(史學雜誌四三ノ九)

同七年九月

朝日融溪 史論と史實

同七年九月刊

小泉信三 唯物史觀と社會理想 (三田評論四二二)

同七年十月

千代田謙 近世史學史 (西洋史講座十二)

同七年十月

平泉 澄 國史學の骨髓

同七年十月刊

米林富男リヅミ 歴史と民族學 (民族學四ノ十一・十二)

同七年十一・十二月

中村藤樹 近世初期に於ける歴史論管見(學藝六)

同七年十一月

鈴木權三郎ヘーゲル 歴史哲學 (ヘーゲル全集十)

同七年十一月刊

船山信一 歴史、唯物誰、辯證法 (思想一二七)

同七年十二月